

# エッセイ

滑床・松野の、いやし旅

地域おこし協力隊 廣瀬佳信



えひめいやしの南予博 2016  
3月26日～11月20日 愛媛県南予地域

傑作ですね、このポスター。

―出合滑（であいなめ）、きれいだな  
来春、えひめいやしの南予博2016が開催されます。出合滑は、滑床溪谷：いや、今となっては南予を代表するヒーリング・スポットですね。今から楽しみです。

今年の4月に大阪から松野町に移住した僕はまだ冬の溪谷を知りませんが、今日は少しだけ、癒しの旅へご案内したいと思います。

夏休み、午前5時20分、日の出時刻まではあと5分ほど。夜明け前のほんの一瞬、滑床キャンプ場に静寂が訪れる。早起きしていた鳥の鳴き声も止み、絶えるはずのない溪流の

水音さえも感じない森閑（しんかん）。静けさで目が覚めた。テントから顔を出すと、昨夜の闇は霧へと変わっていて、木立の隙間から見える狭い空は青みがかったグレー、辺りは潤いある冷たい空気に満ちている。

隣で眠っている家族を起こさないように、そっとシュラフのジッパーを下げ、靴を履く。枯れ葉や枝は夏の露で柔らかく、踏みしめても高い音を立てる心配はない。アカシヨウビンが再びキョロキョロと歌い始めると、一斉に沈黙が破れた。風が川の音を運び、鳥はさえずり、空の青が鮮やかさを増すと同時に霧が晴れ、視界に緑が広がった。薪をくべ、火を起こす。焚き木の爆（は）ぜる音で起こしてしまったのか、コーヒーの香りが漂い始めると、「おはよう」の挨拶が後ろから聞こえてきた。



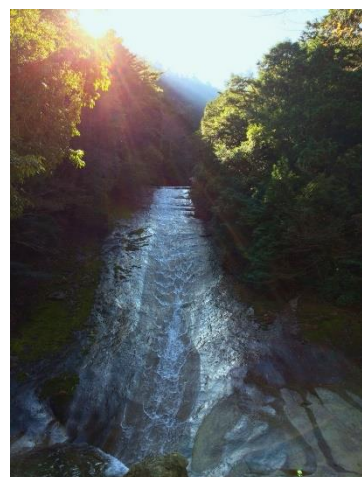
トーストにベーコンエッグとコーヒー。簡単な朝食を済ませ、雪輪の滝への散策に誘ってみたが、もう少し

キャンプ場の朝を楽しんでいたと振られてしまった。残る家族に片付けを任せて、私は溪谷の遊歩道に向かった。

午前8時に差し掛かる頃、右岸ルートで日本の滝百選の名瀑・雪輪の滝を目指して歩き始める。万年橋ですれ違ったグループは三本杭を目指すのだろう。―いつか家族で鬼ヶ城山系を登りたいなあ― また一つ、楽しみが増えたのだった。

晴天が続いているからだろう、水面の表情は穏やかで、アマゴの美しい朱点が見えるほど澄んでいる。なめらかな岩肌水がすべる様子は、滑床の名に相応しい。その反面、勢いのある河鹿の滝や岳見岩の巨石など荒々しい表情もあり、見ていて飽きることが無い。

水気を含んだ風が吹き抜け、凜とした森林のにおいを運び、石畳の脇にはイワタバコが薄紫の可愛い花を咲かせている。陽の光が後方から降り注ぎ、前に見える瑞々しい苔に反射してキラキラと輝きはじめていた。遊仙橋（ゆうせんきょう）から鬼ヶ城山の景観を楽しんだら、ゴールはすぐそこだ。午前8時半、山陰に隠れる雪輪の滝にも太陽が昇り始めた。一日に二回も日の出を感



ることができると、初めて知った。自然は新しい発見に溢れている。さて、降りて家族に自慢しようかな。

季節・時刻・天候、滑床溪谷はいつも新鮮な表情で迎えてくれます。いやしの南予博やご帰省の際には、是非とも足を延ばしてください。心までリセットしてくれますよ。

筆者「廣瀬佳信氏」紹介

大阪の超高級ホテル、リッツカールトンホテルの元シェフだった彼は、華麗なる転身をして、大阪から、森の国・松野町に移り、今や、地域おこし協力隊として活躍しています。